

2022年 4月30日

2021年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名: 中学生無料学習支援教室(通称: 分かった会)

代表者・役職名 氏名: 奈良 勝行

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

中学生無料学習支援事業

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2013年12月、学校の勉強に遅れがちで、何らかの事情で塾等に通うのが困難な中学生に無料で学習支援することを目的に設立しました。現在、登録生徒数は17人で、講師は10人で毎週木曜日の夜2時間公民館で指導しています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

日本では中学校の1クラスの生徒数が約40人という多人数学級なので、どうしても授業に遅れがちな生徒が出てきます。そういう生徒たちや塾等に通うのが困難な生徒の学力を向上させる目的で地域の元教師らに呼びかけてボランティア組織を立ち上げて設立しました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

学校の勉強に遅れがちな生徒、何らかの事情で塾等に通うのが困難な生徒、と希望する一般の生徒を対象に毎週木曜日(9月から翌年2月末までは高校受験する中3生には火曜日にも)、市立公民館の学習室を無償で使用してもらい、10人のボランティア講師が無償で、生徒に5科目の無料の学習指導を行っています。コロナ禍で昨年は3ヶ月ほど休講しましたが、それ以外は着実に事業を継続実施しています。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

結果: 年間約50回、中3生対象の火曜日コースを含めれば合計70回の指導を行っています。現在17人の生徒がコロナ禍ですが、真面目に「通学」してきて、勉強に励んでいます。
成果: 講師の献身的な指導により毎年3月に6~8人中3生が高校入試に合格して、本会を修了して進学しています。創設以来、合計50人が修了しています。
社会的な変化: 地域の学校や保護者たちにも信頼され、応募する生徒が確実に増えてきていますが、コロナ禍で入会者を制限しています。また、修了した生徒(高校生・大学生)が、公民館に来て後輩の生徒の指導にあたるという嬉しい例も出てきています。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

課題: 無償指導のため講師がなかなか集まりません。大学生にも声をかけているが無償だと来てくれません。市役所などからの公的な財政助成を訴えていますが、実現しません。
今後の展望: 公的財政支援を実現して講師を増やし、またコロナ禍が終息したら、より多くの生徒を受け入れるようにしたいです(最盛時は20数人の生徒の指導していました)。

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、「必ず」、別途、ご提供ください。

